

技能・形態・時間	読む(音読) ペア(計測係と交代) 4分
この帯のねらい	既習の教科書本文1段落を、目標タイムを目指して音読する。ペアがストップウォッチで計測し、つかえずに読み切れたかをチェック。速く正しく読める文は、聞き取れる・言える文になる。

やり方

毎回この流れ(先生の英語の合図で始まる)

1

Open your textbook to Set your goal time!

今日の段落を確認し、前回の記録から今日の目標タイムを自分で決める

2

Partner A, read! Partner B, time and check!

Aが音読、Bがスマホ/時計で計測(読み飛ばし・詰まりは「もう1回」の合図)

3

Switch! Partner B, your turn.

交代して同じ段落をBが音読、Aが計測

4

Write your time. Beat yourself next time!

タイムを記録。目標を切れたら次の段落 or 目標更新

ルール

・速いだけはダメ。ペアが聞き取れない音読は記録なし(正確さ×スピード)

・目標タイムは「前回の自分-2秒」が基本(無理な短縮はしない)

・新しい段落の1回目は、まず意味を思い出してから(内容を知らない文は読めない)

きろく

やるたびに記録しよう(のびていく自分が見える)

回	日付	今日のタイム／目標	ひとこと(できたこと・次の目標)
1			
2			
3			
4			
5			
6			
7			
8			

☆レベルアップ！

同じ段落で「ささやき読み→ふつう→感情こめて」の3段変化をつけると表現読みの練習に。学期末は「1分間でどこまで読めるか」方式(wpm計測)に切り替えると、高校の速読へつながる。

先生へ(この帯活動の運用)

本文音読を「毎時間の帯」に固定するための1枚。タイム計測は音読の反復に目的を与える装置で、同じ段落を最低3～4回は自然に繰り返すことになる(この反復量が語彙・構文の内在化を作る)。

計測系の「聞き取れなければ記録なし」ルールが品質保証。教師は机間で「不自然に速い読み」だけ拾って、意味のかたまりで区切る読み方に戻す。単元テスト前は、テスト範囲の本文でこの帯を回すと音読テスト対策も兼ねる。